

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	中央区
学校名	大阪市立南大江小学校
学校長名	植田 隆義

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・南大江小学校では、第6学年 123名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

令和6年度は国語科と算数科の2教科について調査を行った。

国語科の平均正答率は73%で全国平均を5.3ポイント上回った。正答数別（全問題数14問）の分布状況は、正答数10問を頂点として山なりに分布している。（国語科の標準偏差は全国の3.1に対して、本校は2.4）

算数科の平均正答率は70%で全国平均を6.6ポイント上回った。正答数別（全問題数16問）の分布状況は、正答数12問を頂点とし山なりに分布している。（算数科の標準偏差は全国の3.9に対して本校は2.4）

国語科、算数科ともに標準偏差の値が全国平均を下回っており、得点の分布状況が二極分化することなく比較的まとまっていることがうかがえる。また、無回答率は国語科では全国平均の4.2に対して本校は3.3、算数科では全国平均の3.4に対して1.7と比較的低いことが分かっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

全国平均を上回り、かつ標準偏差が低いという本校の結果から次の分析が可能である。本校の全国平均を上回る結果は、一部の得点上位層が引き上げた結果ではなく、全体として比較的高い得点分布にあることが分かる。また、無回答率の低さから、問題に対して粘り強く取り組んでいる様子も見て取れる。問題の分野別の正答率も全て全国平均を上回っているが、回答形式別では短答式が唯一、全国平均を下回っている。ただし、これは裏返せば記述式での正答率の高さを表している。

〔算数〕

算数科においても結果の概要は国語科と同様に、全国平均を上回り、標準偏差が低く、得点分布が二極分化していないことがうかがえる。また特筆に値することは国語科と比べてもさらに無回答率が低く、問題にあきらめず取り組んでいる様子がうかがえる。分野別・問題形式別の正答率も全て全国平均を上回っており特に「数と計算」分野での正答率が高く、算数にかかる基礎的技能に優れているといえる。

本校が所属する第3教育ブロックが掲げる「誰一人取り残さない学力の向上」という目標を数値の上で実現するとすれば、高い得点分布と低い標準偏差ということになり、この意味で本校はその目標を実現しつつあるといえる。

質問調査より

質問紙調査からは主に第4次教育振興基本計画の重要キーワードである「ウェルビーイング」に関わる項目を抜き出している。このキーワードは「心身ともに健康で、持続的に幸福な状態」と解される。「学校に行くことが楽しいですか」、「自分には良いところがあると思いますか」の質問項目において肯定的回答が全国平均を上回っている。また、自身のウェルビーイングに関わる数値の高さが「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」といった他者に関する質問項目においても高い数値に結びついていると推測される。

今後の取組(アクションプラン)

上記の調査結果から、数値として全体的に好ましい状態にあると言えるが、今後は全体の指標以上に、より個別最適の学びを目指して児童の多様性に対応できる学校づくりを目指していきたい。来年度より文理融合、リベラルアーツの考え方に基づいた総合読解力の学習も全市展開となる。基礎基本の学習とともに、学ぶこと自体を楽しみ、生涯にわたって学び向上しようとする学習態度、意欲を喚起する授業力の向上に教師自身も取り組みたい。具体的には以下の取組を行う。

- ・日々の授業の中でのICT機器の活用はもちろんのこと、一人一人の興味・関心に応じて自学も行える環境を整備する。
- ・教職員は授業力の向上に努め、校内外の研修に参加するとともに、児童らの学習意欲を伸ばすための準備、工夫に特に注力する。

【 全体の概要 】

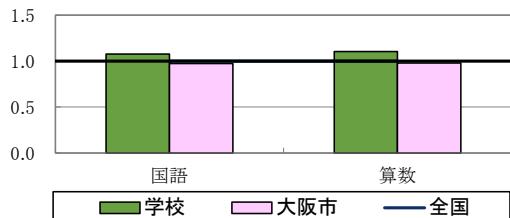
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	73	70
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

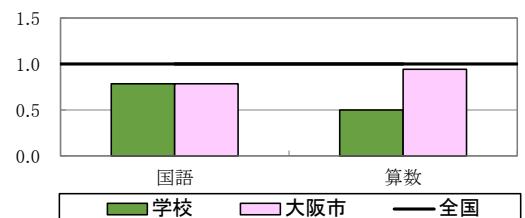
平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	3.3	1.7
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



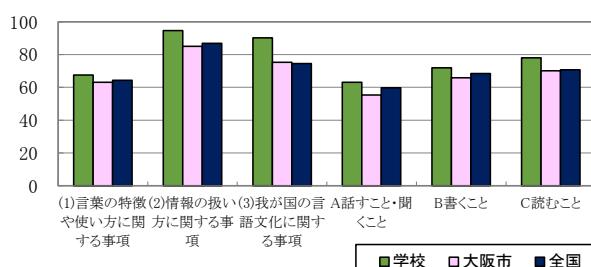
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	4	67.6	63.1	64.4
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	94.6	85.0	86.9
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	90.2	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	63.1	55.3	59.8
B 書くこと	2	71.9	65.9	68.4
C 読むこと	3	78.0	70.1	70.7

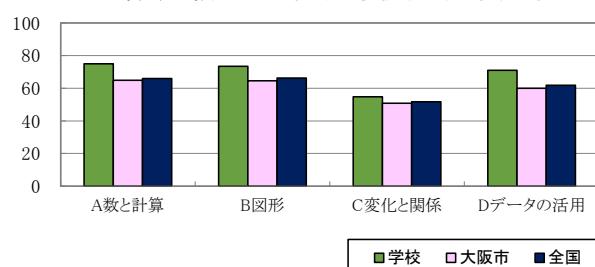
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	74.9	64.8	66.0
B 図形	4	73.4	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	54.8	50.8	51.7
D データの活用	4	71.0	60.0	61.8

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



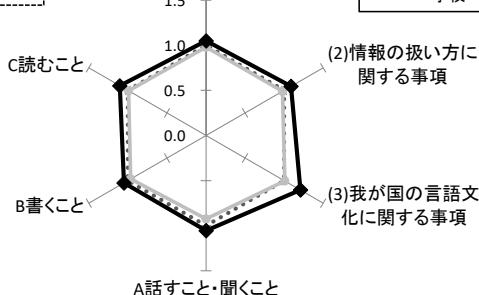
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項

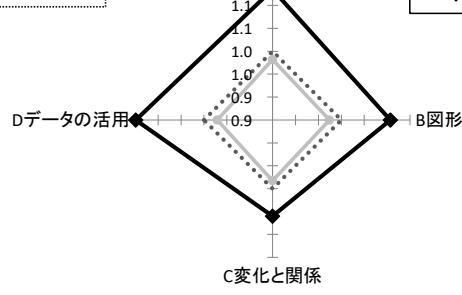
..... 全国
— 大阪市
— 学校



算数
領域別正答率
(対全国比)

A数と計算

..... 全国
— 大阪市
— 学校



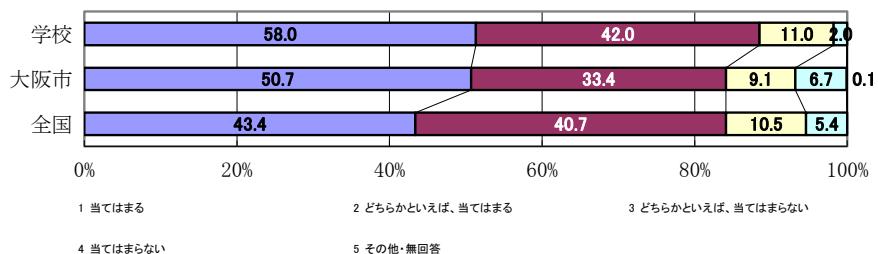
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

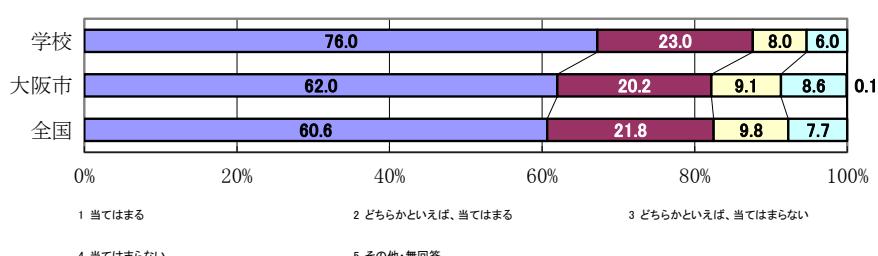
9

自分には、よいところがあると思いますか



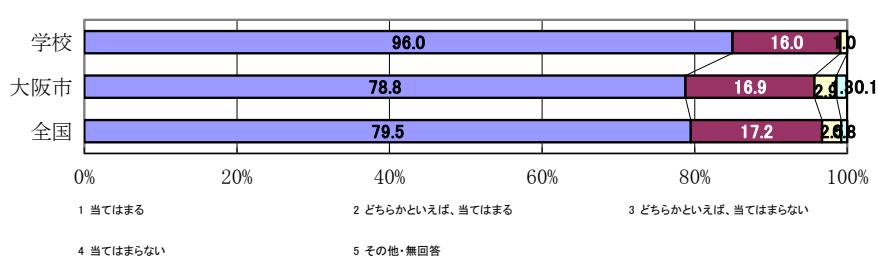
11

将来の夢や目標を持っていますか



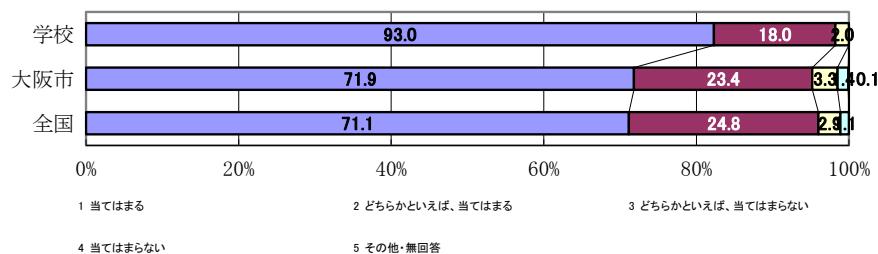
13

いじめは、どんな理由があつてもいいけないことだと思いますか



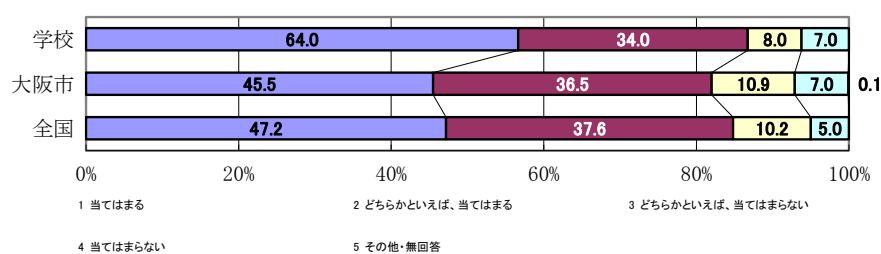
15

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



16

学校に行くのは楽しいと思いますか



学校質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

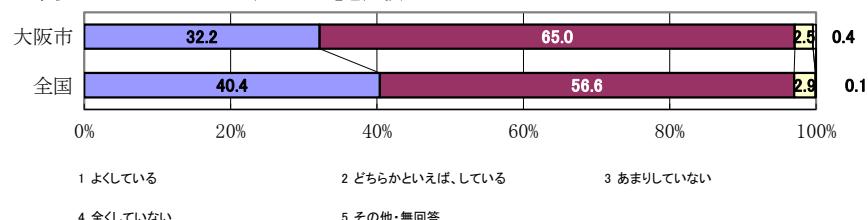
質問番号

質問事項

13

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

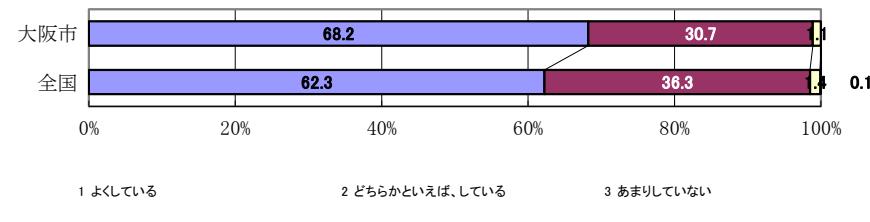
学校 「どちらかといえば、している」を選択



16

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

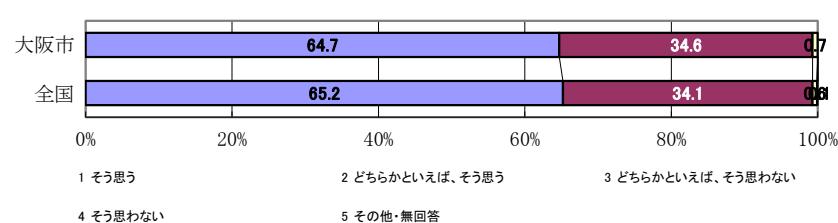
学校 「どちらかといえば、している」を選択



20

学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか

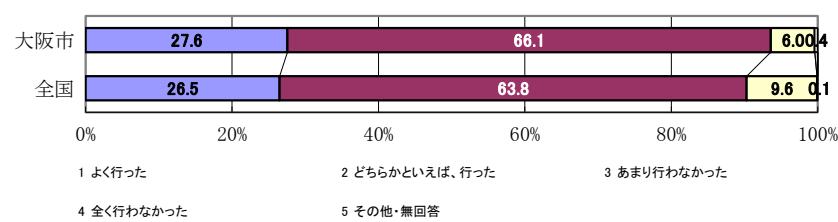
学校 「そう思う」を選択



30

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか

学校 「よく行った」を選択



56

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択

